かいぼりを軸とした自然再生の取組をつたえる

未来へつなごう、湧水の池

KAIBORI News

No.22

2019年11月

登録番号 (1)4

●発行
東京都西部公園緑地事務所
http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/jimusho/seibuk/index.html

●編集
認定NPO法人 生態工房
http://www.eco-works.gr.jp/

ツツイトモにとまるムスジイトトンボ。都レッドリストに選定されている希少種。(2019年7月)

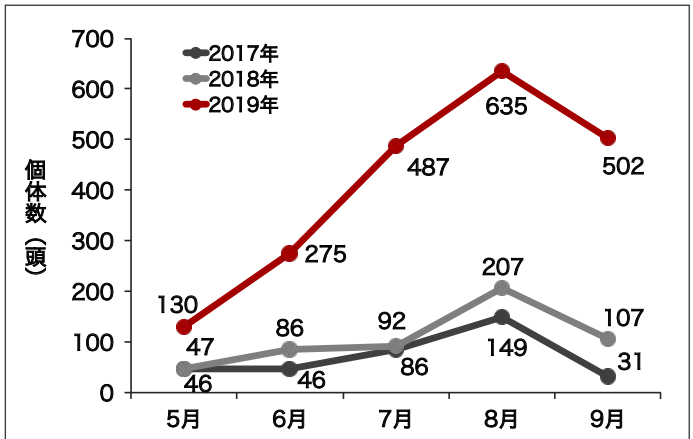
さらに豊かになった！

井の頭池のトンボ

トンボが大幅増！

井の頭池のトンボのモニタリング調査で確認されたトンボの種数・頭数が、2019年に大幅に増加したことがわかった。昨年も前年より増加していたが、今年はそれ以上の増加率だった。

定例調査では、5月から9月に毎月1回、池畔を歩いてトンボの成虫を目視観察した。今年確認されたトンボは27種2035頭（任意調査等を含む）で、昨年の21種540頭よりも多かった。昨年の同月よりも2・8～5・3倍の増加である。



定例調査でのトンボの確認数（2017年～2019年の5月から9月）

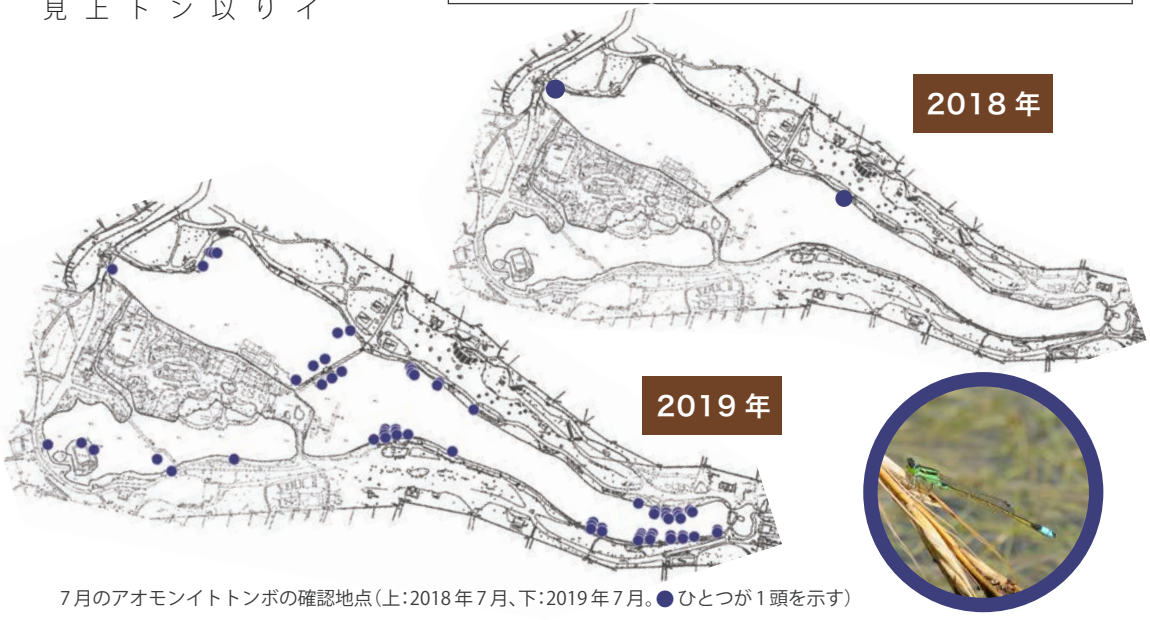
イトトンボがいっぱい！

トンボの中でも特に増加が著しかったのがイトトンボ類だ。月ごとの確認数は昨年同月よりも10・2～111倍多かった。確認されたのは、以前から生息していたクロイトトンボ、アオモンイトトンボと、井の頭池で初確認のムスジイトトンボである。水面に群生するツツイトモの上をたくさんのイトトンボ類が飛び交う様子は見事であった。

今年はツツイトモの生育面積が拡大し、イトトンボ類が増加する要因の一つになったと考えられる。イトトンボ類は水草の組織内に産卵する習性がある。水面まで伸長するツツイトモはイトトンボが産卵するのに適しているのだろう。卵は早いもので1ヶ月半ほどで成虫になるため、夏には新しい世代が羽化した。ボート止めの柵には羽化殻がびっしりと付いていた。

（裏面へ続く）

たくさんのイトトンボ類の羽化殻



7月のアオモンイトトンボの確認地点（上：2018年7月、下：2019年7月。●ひとつが1頭を示す）

抽水植物群落上を飛んでいたチョウトンボ ※別の場所で撮影

産卵も確認されたネキトンボ

池畔の草地で確認されたキイトトンボ

このほか、都の調査でキイトトンボが記録された。本種は水生植物の繁茂する池や湿地に棲むイトトンボで都レッドリスト（北多摩）で絶滅危惧ⅠA類（CR）に選定されている希少種だ。

浅場に飛来したマルタンヤンマ
（提供：井の頭かいぼり隊）

流水環境を好むオナガサナエ
（提供：井の頭かいぼり隊）

モニタリング初記録が続々と！

トンボの成虫は飛翔能力に優れており、新たな生息地へ分散していくものがいる。井の頭恩賜公園の近隣地域に生息していた種が、環境のよくなった井の頭池にも定着しはじめたために、確認種数が年々増加している。今年は、公園付近にはいないか、めったに見られなかった種が6種増加した。

前述のムスジイトトンボ、キイトトンボのほかに、任意調査でオナガサナエ、マルタンヤンマ、チョウトンボ、ネキトンボが新たに確認された。井の頭池では浅場や湿地環境の整備が行われている。マルタンヤンマとチョウトンボは抽水植物や浮葉植物が豊富な池や湿地に生息する種だ。これらのトンボが、来シーズンに井の頭池を飛び交うようになることを期待している。

コオニヤンマ

ギンヤンマ

モノサシトンボ

オオシオカラトンボ

マユタテアカネ

井の頭かいぼり隊 いけいけ！かいぼり隊

～池男（イケメン）＆池女（イケガール）、池の案内人を務める！ の巻～

かいぼりでよくなった池に親しみながら保全の取組を知ってもらうために、7月から新企画「井の頭池ちょこっとウォッチング」が始まっている。四季折々に見られる生きものに合わせ、テーマも毎月変わっていく。

初回の7月は水草が主役だった。折しもツツイトモが群生する様子が「モネの池」と話題になっていた時期で、水草について詳しく聞きたかったという参加者から多くの質問が飛んだ。ツツイトモが群生するボート池を前に、かいぼり前の濁っていた池の写真を掲げると、その変わりように驚く声があがった。

8月以降はトンボ、湿地の植物、秋の水鳥をテーマに開催している。熱心なリピーターもいて、案内役もやりがい十分だ。

パネルで解説するかいぼり隊員

水鳥を望遠鏡でじっくり観察！

今号のイチオシ！ 自然情報

2年ぶり！ 園路の湧水

10月12日の台風による大雨で地下水位が上昇し、池畔の園路の脇から湧水が流れ出しました。園路を湧水が流れたのは2017年10月以来のことです。